

一般	選択	異文化論	0004	学修単位	2	2									石田 依子	
一般	選択	技術者倫理	0005	学修単位	2			2							野本 敏生	
一般	選択	日本文学概論	0006	学修単位	2	2									大久保 健治	
専門	必修	実用技術英語	0007	学修単位	2			2							石田 依子	
専門	必修	応用数学特論Ⅰ	0008	学修単位	2			2							藤井 忍	
専門	必修	コンピュータシミュレーション	0009	学修単位	2			2							岩崎 寛希	
専門	選択	応用数学特論Ⅱ	0010	学修単位	2	2									藤井 忍	
専門	選択	応用物理科学	0011	学修単位	2	2									山縣 淳子	
専門	選択	環境科学	0012	学修単位	2			2							杉村 佳昭	
専門	選択	材料学	0013	学修単位	2	2									増山 新二	
専門	選択	数値解析特論	0014	学修単位	2	2									中村 翼	
専門	選択	電子機器特論	0016	学修単位	2	2									一番ヶ瀬 剛	
専門	選択	情報システム学	0017	学修単位	2	2									北風 裕教	
専門	必修	海洋交通システム学特別研究Ⅰ	0020	学修単位	4	6		6							川原 秀夫	
専門	必修	海洋交通システム学特別実験	0022	学修単位	4	6		6							川原 秀夫	
専門	必修	海洋交通システム学特別演習	0023	学修単位	2	4									川原 秀夫	
専門	選択	インターンシップ	0025	学修単位	2	2									川原 秀夫	
専門	選択	交通システム工学	0026	学修単位	2			2							川原 秀夫	
専門	選択	海事統計学	0027	学修単位	2			2							森脇 千春	
専門	選択	機関システム工学	0029	学修単位	2			2							川原 秀夫	
専門	選択	船舶安全学特論	0030	学修単位	2			2							木村 安宏	
専門	選択	船舶ヒューマンマシンインターフェース論	0033	学修単位	2			2							久保田 崇	
専門	選択	エネルギー変換工学	0034	学修単位	2	2									川原 秀夫	
専門	選択	情報工学特論	0038	学修単位	2			2							岩崎 寛希	
専門	選択	機械システム学	0015	学修単位	2								2		古瀬 宗雄	
専門	選択	エネルギーシステム学	0018	学修単位	2								2		角田 哲也	
専門	選択	産業論	0019	学修単位	2					1			1		櫛田 直規, 川原 秀夫	
専門	必修	海洋交通システム学特別研究Ⅱ	0021	学修単位	12					18			18		川原 秀夫	
専門	必修	海洋交通システム学特別演習	0024	学修単位	2								2		川原 秀夫	
専門	選択	海洋ロボット工学	0028	学修単位	2								2		清水 聖治	
専門	選択	流通ターミナル論	0031	学修単位	2								2		石原 良晃	
専門	選択	船体運動学特論	0032	学修単位	2					2					岩崎 寛希	
専門	選択	反応工学論	0035	学修単位	2								2		古本 啓二	
専門	選択	冷凍空調システム工学	0036	学修単位	2					2					朴 鍾徳	
専門	選択	燃焼工学特論	0037	学修単位	2					2					川原 秀夫	

大島商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	環境科学	
科目基礎情報							
科目番号	0012			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	海洋交通システム学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	自作資料配付						
担当教員	杉村 佳昭						
到達目標							
環境問題の現状、問題解決手段としての技術的方法、環境に関する法律について理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	環境問題の現状を詳細に説明できる。			環境問題の現状の基本を説明できる。		環境問題の現状の基本を説明できない。	
評価項目2	問題解決手段としての技術的方法を詳細に説明できる。			問題解決手段としての技術的方法の基本を説明できる。		問題解決手段としての技術的方法の基本を説明できない。	
評価項目3	環境に関する法律を詳細に説明できる。			環境に関する法律の基本を説明できる。		環境に関する法律の基本を説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
本校 (1)-a 専攻科 (5)-e							
教育方法等							
概要	環境問題の現状、問題解決手段としての技術的方法、環境に関する法律について理解する。						
授業の進め方・方法	講義形式にて行う。						
注意点	課題は締め切り日を守り、必ず提出すること。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	酸性雨と大気汚染		酸性雨の定義と被害状況について理解する。		
		2週	酸性雨と大気汚染		酸性雨の原因と機構について理解する。		
		3週	オゾン層破壊		オゾン層破壊の現状について理解する。		
		4週	オゾン層破壊		オゾン層破壊の現状について理解する。		
		5週	地球温暖化		地球温暖化の被害状況と解決法について理解する。		
		6週	地球温暖化		地球温暖化の被害状況と解決法について理解する。		
		7週	ダイオキシシン		ダイオキシシンの被害状況と解決法について理解する。		
		8週	リサイクル		容器包装のリサイクルについて理解する。		
	4thQ	9週	リサイクル		容器包装のリサイクルについて理解する。		
		10週	水質汚濁		水質汚濁の現状について理解する。		
		11週	水質汚濁		水質浄化の技術について理解する。		
		12週	エネルギー		化石燃料について理解する。		
		13週	エネルギー		バイオ燃料について理解する。		
		14週	触媒		無機触媒、生体触媒（酵素）について理解する。		
		15週	触媒		環境浄化の触媒の利用法について理解する。		
		16週	期末試験				
評価割合							
	試験	課題				その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0